



**TOMO
DACHI**

TOMODACHI
イニシアチブ

★
**20
24**
●

活動報告書

ODYSSEY

次世代リーダー育成を目指して

親愛なる友人のみなさま、

2011年の東日本大震災を受けて、米日カウンシルはTOMODACHIイニシアチブを立ち上げ、アメリカと日本の次世代リーダーの育成に取り組んでいます。

このイニシアチブを通じて、これまでに1万人以上の若い日本人とアメリカ人に人生を変えるような経験を提供してきました。2024年は214名の次世代リーダーがプログラムに参加しました。また、初期のプログラムの参加者の多くは、グローバルな視野を持ち、世界をより良くし、災害への対応力を高めるという決意を胸に、さまざまな社会現場で活躍しています。

それは、2024年1月1日に日本の石川県能登半島を襲った大震災を受けて、改めて実感することができました。TOMODACHIイニシアチブのアラムナイの何名かが、プログラムで培ったスキルを活かし、地域の復興活動に積極的に取り組んだのです。どんな自然災害による悲劇や苦しみからも、希望と光が生まれることを改めて感じさせる出来事でした。

2023年8月、ハワイのマウイ島が広範囲にわたる火災に見舞われた際、TOMODACHIイニシアチブは、これまで培った成功を新たなコミュニティに適用しました。外務省の支援を受け、2024年に創設された「TOMODACHI Kibou for Maui Program」では、21名のマウイ島の高校生が宮城県を訪れ、地域の復興を実際に見学し、希望を胸に帰郷しました。

本プログラムを運営した中心的な人物の一人は、2011年の東日本大震災を経験し、2013年にTOMODACHIイニシアチブの一環としてハワイに渡った参加者です。彼女は、秋に東京で開催されたTOMODACHI次世代サミットおよびUSJC年次総会で、このプログラムのポジティブな影響について語りました。

「私は、今まで出会った中で最も重要な人生の教訓を学びました。それは、生きることができなかった人たちのために強く生きること、そして、他の人たちから奪うのではなく、貢献する人間になることです」と彼女は語りました。

また、2024年は、アメリカと日本の高校生や大学生の交流を支援する教育基金プログラム「ミネタ・アンバサダー・プログラム(MAP)」を創設しました。日米関係を深めた故ノーマン・ミネタ元長官になんで名付けられたこのプログラムは、2024年秋に初めて両国間の交流が試験的に行われ、2025年秋には最初の正式な参加者がプログラムに加わります。

これらの成果は、すべて創設者や支援者、スポンサー、パートナーのビジョンと揺るぎないサポートがあったからこそ実現したものです。今後も、明日のリーダーたちが活気ある日米関係を支えることを奨励し、より明るい未来を創造するために活動を続けていきます。

駐日米国大使館
広報・文化交流担当公使
ダニエル・アーンスト

米日カウンシル 会長兼CEO
オードリー・ヤマモト



「困難な状況でも自分の考えを表現し、自分のために立ち上がることの大切さを学びました。リーダーシップとは、それぞれの長所を認識して、皆が持っている資質を効果的に活用しながら他の人を導き、社会に貢献することなのだと思います」

小園愛凜



使命

TOMODACHIイニシアチブは、米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道支援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本はTOMODACHIイニシアチブを開始しました。TOMODACHIは在日米国大使館と米日カウンシルが主導し、日本国政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、さらには、より協力的で繁栄した安全な世界へ貢献するために、また、そうした世界で成功を収めるために必要とされている、スキルと国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。

将来

TOMODACHIイニシアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして「TOMODACHI世代」を育成するアラムナイ(プログラム経験者)・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

プログラム

教育プログラムは、短・中・長期の留学体験を通じ、互いの文化に触れることで、日米両国の若者の交流を活性化及び拡大し、彼らの人生に刺激を与えます。

文化交流プログラムは、スポーツ音楽、芸術分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、関心を継続していくためのきっかけを提供します。

リーダーシップ・プログラムは、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

アラムナイ・プログラムは、TOMODACHIの経験を基に実施されるプログラムです。日米の若者たちが経験、そしてスキルや自信を身に付けることで、インスピレーションと活力を得て、夢を実現し、より良い世界を構築するために貢献できる人材となるよう支援します。



TOMODACHIの生涯にわたる道のり

TOMODACHIは、生涯にわたる経験を通じて、多文化な若者向けリーダーシップ育成を支援しています。



ストラテジック・パートナー

インパクトを与え続ける パートナーシップ

TOMODACHI イニシアチブを支援するストラテジック・パートナーは、次世代を担う若者の人生を変えるような独自のプログラムを通して、多様なリーダーシップスキルを醸成しています。

2024年、12の多彩なストラテジック・パートナー・プログラムは、起業家精神、地域・観光開発、奨学金、災害看護、スポーツ・マネジメントなど、グローバルな経験やリーダーシップを学び、参加者同士の持続的な関係構築や繋がり場の提供しました。プログラム終了後も、アラムナイ(プログラム経験者)は、「TOMODACHI 世代」として、アラムナイ向けの様々なイベントやワークショップ、プログラムへの参加や交流により、互いに刺激を与えながら成長し続けています。



TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム

2019年から実施されている本プログラムは、次世代を担うリーダーが、東北地方のまちの魅力を再発見し、観光を通して地域の活性化を図ることを目的としています。2024年には、岩手県陸前高田市から16名の参加者が選出され、事前研修、渡米研修、事後研修、発表会から構成される約7ヶ月間のプログラムに参加しました。参加者は、日米での研修を通じて、地元の魅力を再発見することができました。また、米国では、現地学生との交流を通じて、地域社会に向けたユニークなプロジェクトが展開されました。



TOMODACHI Boeing Entrepreneurship Seminar

本プログラムは、日本全国の高校生、大学生、大学院生を対象に、多様な価値観や視点を活かして社会課題の解決や日米文化の架け橋となる人材を育成することを目的としています。2024年3月には、前年度プログラム参加者より選出された5名の参加者が、ハワイ州オアフ島での研修に参加しました。ウェルビーイングに焦点をあてた研修は、参加者それぞれのプロジェクトに社会問題を解決するためのさまざまな学びを与えました。9月には、14回目となるプログラムが開始され、全国から選出された21名がオンラインセッションに参加しました。5か月間のプログラムを通して、国際的な視野、起業家としてのマインドセット、自分の生き方を選択し、自分の道を切り開く力を身につけるための学びを得ました。



TOMODACHI-Dow Women's STEM Leadership and Research Program

本プログラムは、日本の大学で理工系を専攻する女性の大学生10名を対象とした数週間にわたるオンラインプログラムと、テキサス州ヒューストン市のライス大学で実施される5週間の研究インターンシッププログラムです。このプログラムの目的は、教育の公平性を推進しながら、日本のSTEM分野における男女格差をさらに縮小することです。本プログラムはライス大学によって運営されており、参加者は大学の研究室に所属しながら最先端の研究活動に取り組みました。また、アメリカの高等教育システムを実際に体験し、米国人学生との交流を通じて言語や文化についても学ぶ貴重な機会を得ることができました。



TOMODACHI - U.S. Embassy Go For Gold スポーツ・リーダーシップ・プログラム

本プログラムの目的は、日本の大学生がスポーツに携わる各分野でグローバル・リーダーとなることを奨励し、米国で得た知識を日本のスポーツ産業の発展に活用し、日米間の協力の重要性を促進することです。2024年には、10名の参加者が4ヶ月間のプログラムに参加しました。米国研修では、ロサンゼルスとニューヨークを2週間訪れ、施設管理、地域社会との関わり、スポーツ・マネジメントのビジネスに焦点を当てた研修が行われました。2年目となる今年の代表団は、「日本のスポーツリーグ、世界に向けて躍進」「女子スポーツの価値向上」「スポーツにおける社会的影響の可視化」と題した発表を行いました。



TOMODACHI ゴールドマン・サックス・ミュージック・アウトリーチ・プログラム

本プログラムは、参加者が新しいことへ挑戦することの楽しさを体感し、年齢や国籍、立場、文化的背景などが異なる人々と交流することで自身の世界を広げていくことを目的に実施されました。8月には、米国の非営利団体「HEART Global」のキャスト29名と、東京、千葉、神奈川、茨城の児童養護施設から集まった小学1年生から高校3年生までの子どもたち72名が、歌とダンスのワークショップを行いました。さらに、10月から11月には、福島県と宮城県の4つの中学校で、計560名の生徒とワークショップを実施しました。



TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム

2015年から実施されている本プログラムは、日本の看護学生が災害看護の理解を深めることを目的としています。2024年には、日本全国から10名の看護学生が参加し、事前研修、米国研修、事後研修、最終報告会からなる6ヶ月間の研修を行いました。学生らは8月にニューヨーク州、ニュージャージー州およびワシントンD.C.を訪問しました。また、11月には、兵庫県で開催された第8回世界災害看護学会学術集会において、事後プロジェクトが行われ、オーストラリア、インドネシアをはじめ5カ国の学生と活発なディスカッションを行いました。



TOMODACHI MUFG Sustainable Entrepreneurship Program

2024年に開始した本プログラムは、人と地球のために世界をよりよく変えるという情熱を育むため、持続可能な開発目標(SDGs)に重きを置いた、日本の高校生を対象としたリーダーシップ・プログラムです。2024年には、全国から16名の参加者が選出されました。米国研修では、シリコンバレーやサンフランシスコペイエリア周辺地域の企業団体訪問を通して、米国のサステナビリティやDEI(Diversity, Equity, and Inclusion)に関する取り組み、起業家精神を学び、自身のプロジェクトに活かすヒントを得ました。事前研修と米国研修を通して、参加者は、先人の発想の枠を超えた新しい社会システムをデザインする力、課題に向き合い、何度でも新しい一歩を踏み出し続ける、挑戦し続ける力を身に付けました。



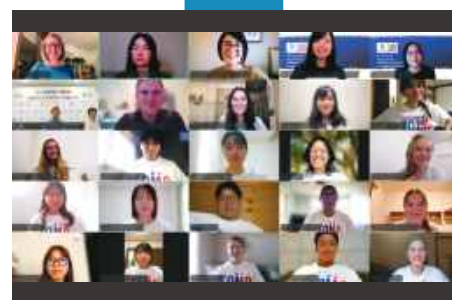
Building the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Program

本プログラムは、市民社会について学び、社会問題に取り組む市民社会の役割について学ぶことを目的としたリーダーシップ・プログラムです。2024年には、日本の大学生9名と米国の大学生5名が参加しました。計14名の参加者は、非営利組織が政府や企業とセクターを超えたパートナーシップを構築する方法について学び、それを発展させることで、各パートナーの強みやリソースを統合し、社会が必要としている重要な分野における解決策を開発・提供することができることを学びました。帰国後、日本人参加者は、モルガン・スタンレーで開催された報告会に参加しました。

「フリーディスカッションが行われるなど、オープンな米国の
研修室の雰囲気が好きでした。プログラムを経て、
キャリアのどこかで米国に戻るという選択肢をもっと考えるようになりました」

武藤もなみ





TOMODACHI住友商事奨学金プログラム

本プログラムは2014年より、大学生の1年間の米国大学留学を支援しており、日米をつなぐグローバルな視野を持った若手リーダーの育成を目指しています。3月に、2023-2024年度奨学生は、米州住友商事が実施する研修に参加し、グローバルな視野を広げ、リーダーシップを身につけることができました。2024-25年度は、10名の奨学生が選ばれた他、東京で開催された米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスにアラムナイが参加しました。

TOMODACHIサマー・ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム2.0

本プログラムは、2012年より実施され、延べ1,000名以上の参加者を輩出したプログラムに基づき2023年に新設されました。岩手県、宮城県、福島県の高校生と大学生12名にリーダーシップの機会を提供し、参加者は、2024年夏に3週間かけて、カリフォルニア大学バークレー校で地域貢献とリーダーシップについて学びました。また、参加者は、社会問題を解決するためのアイデアの出し方、それを企画・実行し、アクションを起こす方法を学びました。そして、それぞれの課題を解決するためのアクションプランを策定し、仙台で発表しました。

TOMODACHI Tanaka Sangyo Agricultural Exchange Initiative: Climate and Food System Awareness Program

2024年から開始された本プログラムは、気候変動と農業との関連という世界的課題に取り組むことを目的としたプログラムです。2024年には、新潟県と米国・テキサス州のそれぞれの大学から選ばれた計20名の学生が参加しました。本プログラムのカリキュラムでは、自己認識、内省、サステナビリティに焦点を当てると同時に、農業と気候変動に関する持続可能な開発目標(SDGs)についても深く掘り下げていきます。参加者は、オンラインセッションに加え、日米での対面セッションにも参加し、両地域の農業を取り巻くエコシステムを深く掘り下げ、多様な農業の手法や環境について理解を深めました。

TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Program

本プログラムは、日本全国の高校生にリーダーシップの機会を提供することを目的としたプログラムです。8月には20名の高校生がカリフォルニアを訪れました。11日間のプログラム期間中、生徒たちはジャパン・ハウス、ミュージアム・オブ・トレランス、全米日系人博物館などの文化施設を訪れ、米国の歴史や多様な文化に触れ、日米関係や多角的な視野及びリーダーシップについての学びを深めました。また、在ロサンゼルス日本国総領事公邸を訪問する機会もありました。現地の家庭でのホームステイ体験や、現地の高校での体験学習を通して米国の高校生との交流を深めました。



異文化リーダーの育成

2024年度には、3つの一般基金プログラムを実施しました。ドナーからの寄付により、教育交流・リーダーシップ育成プログラム・異文化理解プログラムの実施が可能となりました。



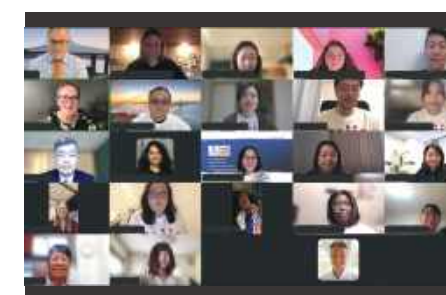
TOMODACHIカケハシ イノウエ・スカラーズプログラム

本プログラムは、日米の大学生が互いの国や文化について学ぶ機会を提供する青少年交流プログラムです。2014年に開始されたこのプログラムの特徴は、ダニエル・K・イノウエ上院議員の生涯を称え、参加者たちがイノウエ上院議員の国、遺産、そして日米関係への貢献について学ぶ機会を提供することです。2024年3月には、ロヨラ・メリーマウント大学とハーワード大学の学生が、10日間のプログラムに参加しました。



TOMODACHI Kibou for Maui Program

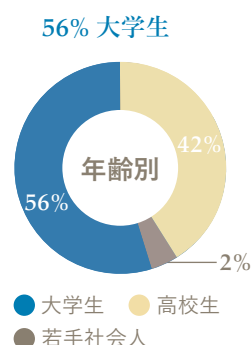
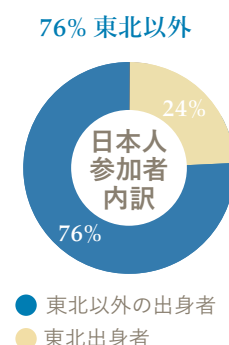
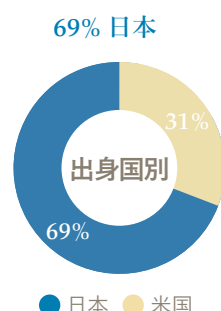
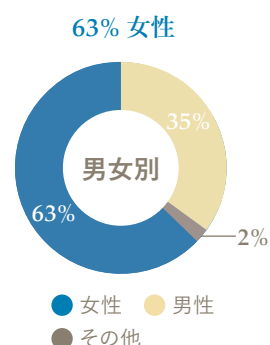
本プログラムは、2023年8月にハワイ・マウイ島で発生した壊滅的な山火事の影響を受けた高校生を支援するプログラムです。マウイ島の高校生を宮城県東松島市に派遣することで、2011年の東日本大震災の困難を乗り越え、生き延びた仲間たちと繋がり、文化交流、回復について学ぶ機会を提供します。2024年には、3月に11名、7月に10名のマウイ島ラハイナの高校生が東北地方で1週間過ごし、東日本大震災の復興過程やリーダーシップについて学びました。さらには、地域のリーダーやコミュニティメンバー、TOMODACHIアラムナイとの交流を深めました。



TOMODACHI Story Jam for Youth with Disabilities

ストーリーテリングとリーダーシップを学ぶ本オンラインプログラムは、障がいを持つ日米の若い社会人と学生8名を対象に開催されました。9週間のプログラム期間中、参加者は毎週セッションに参加し、重要な課題に直面した瞬間や、その課題をどのように乗り越えたか、そしてその洞察や経験をどのように自分自身や地域社会にポジティブな変化をもたらすことができるかについて話し合いました。プログラムは、参加者のアドボカシーストーリービデオの上映で締めくくられました。

2024年度の統計



発足以来、

386 のプログラム

10,361 名のプログラム参加者

47,740 名のプログラム・イベント参加者

永続的なエンゲージメント

2023年に1万人を超えたTOMODACHI世代は、2024年も飛躍を続けました。TOMODACHIの経験は、プログラム参加だけに留まらず、プログラム終了後も長期にわたり継続しています。TOMODACHI世代のパワーは、それぞれの地域や社会全体との繋がりを維持しながら、アラムナイ同士での強いネットワークやエンゲージメントにあります。年間を通じて、TOMODACHIアラムナイは、全国や各地域で開催される様々なプログラムやイベントに集結し、社会に前向きな変化を促進しています。具体的には、「TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク」「次世代サミット」「TOMO-KINキャリアトーク」等の革新的なプログラムを実施しています。TOMODACHIアラムナイ・コミュニティは、人と人とのつながりを通して若者リーダーを育成し、草の根レベルで力を与え続けるという日米両国の揺るぎない約束を体現しています。TOMODACHIアラムナイプログラムは、プルデンシャルの寛大な支援によって成り立っており、次世代のグローバルリーダーへの道を開き続けています。

TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、日米関係を担う次世代リーダーが、TOMODACHIの経験を基に、夢を実現するためのスキルや自信を得て、アラムナイ同士が影響を与え合い、より良い世界の構築に貢献できるよう支援を続けています。

TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、日米関係を担う次世代リーダーが、TOMODACHIの経験を基に、夢を実現するためのスキルや自信を得て、アラムナイ同士が影響を与え合い、より良い世界の構築に貢献できるよう支援を続けています。

TOMODACHIアラムナイ・プログラム4つの柱



社会に出る準備

メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。



クリティカル&イノベティブ・シンキング

市民活動既成概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。



市民活動

TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。



つながりと継続性

TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、さらにネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人とのつながりを生かしていきます。

Engaged and Empowered: Building Alumni Connections

アラムナイハイライト



TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク

TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークは、各地のTOMODACHIコミュニティを構築・強化するもので、米国および日本の領事館・大使館の支援のもとで実施されています。この枠組みでは、各地域の地域代表として選ばれたアラムナイが、ネットワーキングやビジネススキルアップのためのイベントに他のアラムナイを招待し、コミュニティを強化し、将来のリーダーを育成する機会を提供します。2024年には、21の地域イベントがニューイングランド、ワシントンDC、ハワイ、北海道、関東、関西、中部・北陸、九州、沖縄で開催されました。



次世代サミット

9月29日、次世代サミットには、ダイナミックで多様な参加者が集まり、キャリアフェアの要素を取り入れたネットワーキングの機会、パネルディスカッション、ピッチコンテスト、アラムナイとの再会を経験しました。本イベントは、行動を促進し、意義深いつながりを生むことを目的とした3つの主要コンテンツ「TSUNAGARI Hub」「TOMOVoice」「Visionary Voices」を中心に開催されました。各分野のリーダーによる講演は、若者の関与が強固な国際関係を育む可能性を示し、参加者は、コミュニティのエンパワーメントや国際関係において、リーダーシップを発揮する明確なビジョンを持ち帰ることができました。



TOMO-KIN

本イベントは、2021年に実施されたTOMODACHIアラムナイのアンケートで、よりカジュアルな場で他のアラムナイと繋がることを望む声にこたえ、継続して実施されています。パンデミックの時期に開始され、当初はバーチャル・セッションとして始まりました。2022年7月以降、本イベントは対面で実施されるようになり、2024年度には、対面イベントが2回開催され、ゲストスピーカーがTOMODACHIアラムナイにキャリアの歩みと助言を共有しました。元外交官で、外務審議官の河野雅治氏からは「リスクを取る事を恐れしないでください」と力強いメッセージが伝えられました。

「将来は、他の人たちが自信を持ち、自分の居場所だと感じられるような、温かく迎え入れてくれる環境を作りたいと思っています。自分が『誰であるか』よりも、それをどう活かしてこの世界を進み、他の人々が前に進む手助けができるかのほうが大事だと感じています。私は、人々が自分のアイデンティティにとらわれることなく前に進む勇気を持てるよう、促していきたいと思います」

ニア・フロイド





中渡千晶

「TOMODACHIプログラムの渡米研修を通じて、年齢や性別に関係なく、周囲に認められた経験が、大きな自信に繋がりました」

中渡千晶氏は、TOMODACHI日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラムのアラムナイで、現在は岩手県陸前高田市に住む高校生です。彼女は将来、起業を通じて陸前高田市の地域創生に貢献し、その魅力を広く発信していくことを目指しています。

Q. TOMODACHIプログラムに参加したきっかけは何ですか？

私の地元である陸前高田市は、豊かな自然や震災を乗り越えた地域の団結力、あたたかい人々など、多くの魅力にあふれています。私は、そんな陸前高田市が大好きですが、都市部と比べるとその魅力を発信する機会が限られているのが現実です。将来、起業家として前例がないことに取り組み、地域創生に貢献したいという思いから、このプログラムに応募しました。

Q. TOMODACHIプログラムで、最も印象的だったことを教えてください。

渡米研修では、ニューヨークにある「国立9/11メモリアル・ミュージアム」やワシントンD.C.の「D.C. セントラルキッチン」を訪れました。ミュージアムでは、様々な言語のガイドがあり、外国から訪れた人々にも伝わるようなシステムが整っていることに感銘を受けました。これにより、「東日本大震災津波伝承館」における課題を感じました。また、セントラルキッチンは、職業的な訓練なども行っており、人々が「第二の人生」を歩む場所だと感じました。私の地元でも、震災で「居場所」を失った人々が多いため、どうすればそのような人々を支えることができるのか、という視点で多くのヒントを得ました。

Q. TOMODACHIプログラム参加後、何か変化はありましたか？

プログラム参加者の中で、他のメンバーが全員先輩で、自分が唯一の高校1年生だったため、初めは、後輩として自分がこの場にいてもよいのか不安でしたし、日常生活でも周りの意見を優先しがちでした。しかし、渡米研修の訪問先で物怖じせずに質問をしている仲間たちに刺激を受け、私自身も次第に自信を持ち、訪問先で質問をしたり、代表挨拶をするなど積極的に参加するようになりました。年齢や性別に関係なく、周囲に認められた経験が、大きな自信に繋がりました。

Q. 将来の夢は何ですか？

現在、高校で生徒会長を務めています。生徒にとっての「居場所」であると同時に、先生方にとっても「居場所」である学校づくりを目指しています。将来は起業して、地元・陸前高田市に雇用を生み出すことで人々の「居場所」を提供し、陸前高田市の地域創生に貢献したいです。



フェリックス・ガルシア

「私にとって、TOMODACHIは『コミュニティ』を表しています。それは、多様な文化背景を持つ人が、異文化交流への情熱を共有し合える場所だと思うからです」

フェリックス・ガルシア氏は、TOMODACHI大和ハウス学生リーダーシップ会議のアラムナイで、現在はニューイングランド地域のTOMODACHIアラムナイ地域代表として活動しています。また、テクノロジースタートアップ企業に勤務し、技術を活用してより包括的で公平な社会の実現を目指しています。

Q. アラムナイとしてTOMODACHIコミュニティに携わるようになったきっかけについて教えてください。

コロナ禍でTOMODACHIのアラムナイと再会し、TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークに参加しました。また、Breonna TaylorとGeorge Floydの殺害によって生まれた2020年の人種差別と公民権運動は、米日カウンシルのCritical Conversationsシリーズに参加するきっかけとなりました。これらの経験を通して、TOMODACHIコミュニティにより深く関わるようになりました。

Q. あなたにとって、TOMODACHIとは何ですか？

私にとって、TOMODACHIは「コミュニティ」を表しています。それは、多様な文化背景を持つ人が、異文化交流への情熱を共有し合える場所だと思うからです。TOMODACHIと深く関わるのが次世代への投資であり、日米関係を強化し続けるものだと感じています。

Q. TOMODACHIアラムナイ地域代表としての経験は、あなたの成長にどのような影響を与えていますか？

代表としての活動を通じて、ネットワーキングや人間関係構築スキルを伸ばすことができました。また、他のアラムナイだけでなく、多くの専門家や組織と繋がりを築くことができました。他者との繋がりをサポートするこの役割に、非常にやりがいを感じています。

Q. TOMODACHIとの関わりを振り返り、アラムナイにどのようなアドバイスをしますか？

私自身、プログラムの仲間から多くの刺激を受けているため、彼らとのつながりを維持することは大切です。また、TOMODACHIのニュースや告知に常に目を通しておいください。イベントに参加することで素晴らしい人々との出会い、新しい可能性が広がります。そして、ニュースレターに登録し、SNSをフォローし、アラムナイに連絡を取ってみてください。イベントやカンファレンスに参加することで、新たな機会が開けるでしょう。



井上涼

「地元では決して理解されることのなかった気持ちを肯定してくれ、目標を追いかけてもいいと思わせてくれたTOMODACHIでの経験があったからこそ、今の自分があります」

井上 涼氏は、TOMODACHI Microsoft iLEAP Social Innovation and Leadershipプログラムのアラムナイで、現在は九州地域のTOMODACHIアラムナイ地域代表として活動しています。福岡県八女郡広川町で教育事業を立ち上げ、子どもたちが将来の目標や野心を追求できる環境づくりを目指しています。

Q. あなたとTOMODACHIプログラムの出会いはどのようなものでしたか？

24歳の時、幼い頃からプロサッカー選手を目指していた私は、サッカーを辞める決断をしました。それまでサッカー一筋だった自分が、これから何をしたいのか分からず、将来への不安を抱えていました。そんな中、勇気を出してプログラムに参加することを決めました。

Q. TOMODACHIプログラムで何を学びましたか？

メンターや仲間たちのおかげで「やりたいことを自分が納得のいくまでやり切り、その先にまったく別のチャレンジをしても、情熱をもって行動し続けていけば必ず未来は変えていける。」と確信できました。地元では決して理解されることのなかった気持ちを肯定してくれ、目標を追いかけてもいいと思わせてくれたTOMODACHIでの経験があったからこそ、今の自分があります。

Q. TOMODACHIプログラムでの学びをどのようなことに生かしていますか？

地元の福岡県八女郡広川町で、小学生から高校生までがともに学ぶ「Irodori Study Lab」という現代版の寺子屋を起業しました。「世界を八女に、八女から世界へ」をミッションとし、田舎にしながらも子どもたちの世界を広げることができる、探求型、対話型の活動を行っています。

Q. 「Irodori Study Lab」の設立に至った経緯を教えてください。

サッカー選手を目指す過程で「サッカー選手として食べていけない」等の言葉をかけられ、地域のしがらみや固定観念から生きづらさを感じ、悔しい経験をしたことから、過去の自分と同じように、田舎で挑戦をしようとしている子どもたちの「一歩目」を全力で応援できる場を作りたいと思いました。

Q. 九州地域のアラムナイ地域代表として、どのように地域に貢献していきたいですか？

当時、TOMODACHIプログラムに参加したメンバーの多くは社会人になっています。九州地域のリーダーとして、まだTOMODACHIの活動が届いていない若者たちに向けて、自身の経験を伝えることで、コミュニティに貢献していきたいです。



荻野 葉

「たとえうまくいかなくても、それも大事なピースです。だからこそ、少しでも『気になる』という気持ちを大事にして、挑戦してほしいです」

荻野 葉氏は、TOMODACHI-STEM Women's Leadership and Research Programのアラムナイです。将来はアカデミアで研究者を目指しおり、現在、大学院の修士課程では神経科学の視点から「老化と寿命の関係性」について研究しています。

Q. TOMODACHIプログラムに参加しようと思った理由は何ですか？

海外の大学で研究を行えるインターンシッププログラムという点、そして女性の大学生を対象としており、同じ志を持つ仲間と出会える点に惹かれて参加を決めました。

Q. TOMODACHIプログラムで、最も印象的だったことを教えてください。

とにかく研究が非常に楽しかったです。アメリカの大学では、学生一人ひとりのバックグラウンドが異なり、それぞれの研究テーマや持っている考え方も違うため、とても刺激的でした。さらに、研究以外の日常的な会話もとても楽しく、彼らとの交流から多くの学びがありました。

Q. TOMODACHIプログラム参加後、何か変化はありましたか？

プログラム参加前は、もし研究者になるのであれば、海外には博士号取得後にポスドク（博士研究員）として行くのが良いと色々な方から言われていました。しかし、実際にアメリカで研究インターンシップを体験し、早く海外で学びたいという思いが強まりました。プログラムへの参加を通じて、海外の博士課程に自信を持って進みたいと感じるようになりました。

Q. TOMODACHIプログラムのアラムナイとはどのように繋がっていますか？

同じプログラムのアラムナイの千葉悠希奈さんには、プログラムへの申し込みの段階からその魅力について教えていただきました。また、アメリカの大学院の博士課程で勉強されている千葉さんには、アメリカで研究を行うことについてや将来の進路についても相談しています。

Q. プログラムへの参加を考えている後輩にどのようなメッセージを送りたいですか？

もし少しでもこのプログラムやアメリカで学ぶことに興味があったり、チャレンジしてみたいという気持ちがあれば、ぜひ怖がらずに挑戦してほしいと思います。たとえうまくいかなくても、それも大事なピースです。だからこそ、少しでも「気になる」という気持ちを大事にして、挑戦してほしいです。

ストーリーを分かち合う

2024年米日カウンシル アニュアルカンファレンスが東京で開催されました。
TOMODACHIアラムナイは700名を超える聴衆を前に、
自らの経験やプログラムが人生に与えた影響について語りました。

成澤みく氏は、TOMODACHIレインボーフォージャパンキッズ(Rainbow For Japan Kids)のアラムナイであり、TOMODACHI Kibou for Maui Programのパートナー団体、オデッセイ・ネイチャー・ジャパンの創設者です。彼女は、2011年の東日本大震災の経験や、ハワイ州ラハイナの山火事で被災した生徒たちを支援するためのプログラムを立ち上げた経緯を語りました。

「私の人生の教訓は、生きることができなかった人たちのために強く生きること、そして、ほかの人たちから奪うのではなく、貢献する人間になることです」

昨年、ハワイで山火事が発生した際、彼女は「恩送り」をする番だと感じ、マウイからの生徒を受け入れました。その際、彼らが自分の被災時と同じ不安を抱えていることに気づきました。彼女は、災害の「生存者」としてではなく、「輝かしい未来のリーダー」として彼らを見たいと考え、プログラムを通じて彼らが「思いやりと目的を持って自分の未来を切り開く力を持つ力強い人々」になってほしいと願っています。最後に、国境を越えた絆と若い世代の力が世界を変えるという言葉でスピーチを締めくくりました。

閉会プレナリーでは、3名のアラムナイがパ

ネリストとして登壇しました。

MJee Abara氏は、TOMODACHI Kibou for Maui Programのアラムナイで、2023年のハワイの山火事と、東北で学んだ東日本大震災後のレジリエンスについて述べました。山火事により、マウイ島・ラハイナで多くの人々が家や愛する人々を失い、彼自身は生存者としての罪悪感に苦しんでいました。しかし、東北で同世代の人々との交流を通じて、彼と同じ経験を持つ仲間たちが希望を見出し、コミュニティに貢献する姿に感銘を受けました。

「東北で出会った人たちからインスピレーションを受けた私たちのビジョンを、ラハイナの未来への希望として持ち帰りたいです」

プログラムを通じて、彼はラハイナの次世代リーダーとしての使命を明確にしました。それは、芸術や文化を通じてコミュニティを守り、環境保護や精神的健康を重視し、安全と伝統のバランスを見つけることです。また、彼は、将来、マウイ島に留まり、ラハイナで救急救命士として働き、コミュニティに貢献したいと考えています。火災などの災害の際に、自分が感じた悲しみや絶望を味わう人々をなくしたいと力強く語りました。

クロージングプレナリーセッションでは、3名のアラムナイがパネリストとして登壇しました。



林田光来

2021年のTOMODACHI Story Jamのアラムナイで、障がい者の就労支援を行うソーシャルワーカーとして活動しています。彼女は「障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしくいられる社会」を目指し、車いすユーザーとしての自身の体験を元に、アドボカシー活動を展開しています。



五十嵐光

2014-2015年のTOMODACHI MetLife Women's Leadership Programのアラムナイで、ウィメンズアイのエグゼクティブディレクターとして、ブロックチェーン技術を活用したP-to-P共有アプリケーションを立ち上げ、すべての人が必要なリソースにアクセスし、自信を持って前進できる社会の実現を目指しています。



阿部晶太郎

2022年のTOMODACHI Boeing Entrepreneurship Seminarのアラムナイで、地元鎌倉でオーケストラを設立し、初のコンサートで600席を満席にしました。彼はその経験を活かし、スタートアップへの提案やアドバイスをを行い、事業の発展を支援しています。



米日カウンシル(U.S.)および米日カウンシルージャパンは、在日米国大使館と協力し、官民パートナーシップであるTOMODACHIイニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動としています。

米日カウンシル(U.S.)は、ワシントンD.C.に本部を置く501(c)(3)非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする団体です。米日カウンシルージャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシルージャパンと米日カウンシル(U.S.)は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。

米日カウンシルージャパン理事会 (2024年12月末日現在)

理事会役員

オードリー・ヤマモト
代表理事
米日カウンシル 会長兼最高経営責任者

高田 ヘンリー 聖一
代表理事
シンテックジャパン株式会社 代表取締役

岩本 展枝
監事
PwC Japan有限責任監査法人 パートナー

理事

大出 隆
学習院女子大学 非常勤講師 兼 国際学研究所顧問

ジェニファー・ロジャーズ
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社 ゼネラル・カウンセル アジア

谷 美由紀
ペレグレイン・コンサルティング株式会社 代表取締役

亀田 綾子
大林組 執行役員 グリーンエネルギー本部副本部長

江端 貴子
株式会社えばたたかこ事務所 代表取締役

米日カウンシルージャパン評議員会 (2024年12月末日現在)

理事役員

佐藤 スコット
会長
サークレイス株式会社
代表取締役会長兼社長

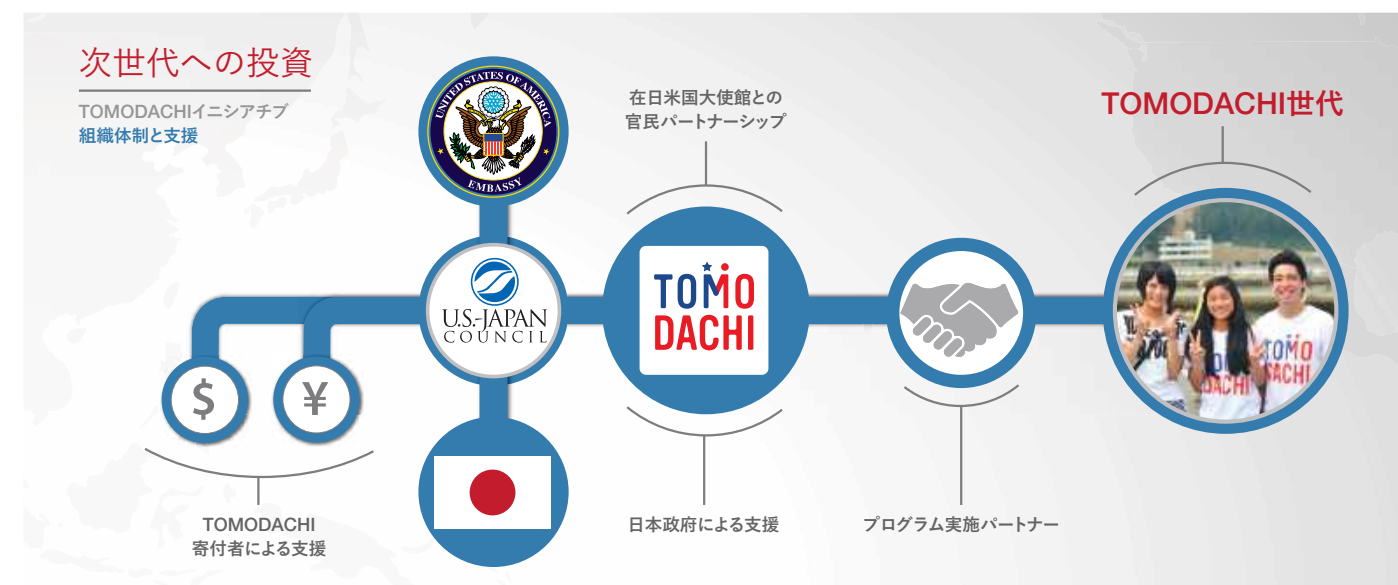
理事

大河原 愛子
株式会社デルソーレ
創業者兼シニアアドバイザー

津坂 美樹
日本マイクロソフト株式会社
代表取締役社長

川原 ラッセル K.
渥美坂井法律事務所
パートナー

米国人の米日カウンシルの理事および評議員のご支援にも同様の感謝を申し上げます。各位のお名前はこちらからご覧いただけます。
<https://www.usjapancouncil.org/board-of-directors-us/> | <https://www.usjapancouncil.org/board-of-councilors/>



感謝を込めて

—— ファウンディング・ストラテジック・パートナー —— (2012年創立当初より\$1,000,000以上)



—— ストラテジック・パートナー —— (\$1,000,000以上)



「このプログラムは、3.11の被災地がどのような経験をしたかを学ぶ
素晴らしい機会を与えてくれました。
また、この旅は、私たちがラハイナの将来のリーダーとなる理由を与えてくれました。
皆さんのホスピタリティと親切に本当に感謝しています」

ノア・ゴードン



—— 協賛企業 —— (\$100,000から\$1,000,000)



—— 支援企業 —— (\$10,000から\$100,000)

All Nippon Airways Co., Ltd. | Cheerio Corporation | ExxonMobil Japan | Imperial Hotel, Ltd. | Hayasaka Tax Accountants' Office Co., Ltd. | Japan Association of Charitable Organizations | NEC Corporation | Orrick, Herrington & Sutcliffe LLP | Tricor K.K.

高まるTOMODACHIの広がり

さまざまな形でTOMODACHIの知名度を高め、幅広くご周知いただいております。数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。



TOMODACHI ロゴを機体にデザインした全日空機



羽田空港内の各所に設置されたTOMODACHIの看板

実施運営パートナー

TOMODACHIではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2024年は、以下のパートナーがプログラムを実施しました。

特定非営利活動法人アスヘノキボウ | Children's National Hospital | Global Seed | 一般社団法人IMPACT Foundation Japan (INTILAQ 東北イノベーションセンター) | 一般財団法人日本国際協力センター | 日本スポーツマネジメント学会 (JASM) | Japanese Cultural Center of Hawai'i | NPO法人じぶん未来クラブ | LA84財団 | ローラン協会 | LeadOff Sports | リーハイ大学 | 一般社団法人ODYSSEY | ライス大学 | RootSpring | 一般財団法人SFCフォーラム | 一般社団法人トナリノ | カリフォルニア大学パークレー校 | University of Massachusetts Foundation, Inc. | ワシントンセンター | 一般社団法人World in You (ワールドインユー)

TOMODACHI決算概要

TOMODACHI累計寄付額(各年)(米ドル建て)
米日カウンシル(連結)

TOMODACHIへの寄付金および誓約寄付金	2011-2023	2024	2024-26(誓約済み)	TOTAL
米日カウンシルージャパン	\$37,971,608	\$1,713,668	\$0	\$39,685,276
米日カウンシル(U.S.)	24,906,107	235,000	80,000	25,221,107
小計	62,877,715	1,948,668	80,000	64,906,383
現物寄付(U.S.およびジャパン)	5,239,611	0	0	5,239,611
寄付金および誓約寄付金の総合計	\$68,117,326	\$1,948,668	\$80,000	\$70,145,994



**TO[★]MO
DACHI**



**TO[★]MO
DACHI**



**TO[★]MO
DACHI**

 @USJapanTOMODACHI

 TOMODACHI-INITIATIVE

 @TOMODACHI

 @TOMODACHI_initiative

 @USJapanTOMODACHI

 TOMODACHI.ORG